



下和泉小だより

横浜市立下和泉小学校

校長 船木 淳

入学・進級、おめでとうございます。

令和6年度、次の50年に向けた新たなスタートです。

ビッグデータの活用や生成系AIなど、子どもたちや学校を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。タブレット端末の導入やコロナ禍で進んだ学校教育の精選、そして昨今話題となっている教員不足や教員志望者減の問題。これからの教育を考えたとき、「個別最適な学び」と「協働的な学び」というキーワードのもと、「持続可能」であることが求められます。

新たなスタートだからと言うわけではありませんが、令和7年度に改訂・運用する新しい中期学校経営計画を策定するために、子どもたち一人一人を見つめ、様々な教育活動やシステムの見直しに取り組んでいきます。具体的には、「40分授業を導入した場合のメリットとデメリット、解決すべき課題」、「タブレット端末の効果的な活用、デジタル教科書・ドリルの導入や端末の持ち帰り」、「全市一斉導入家庭と学校の連絡システム（すぐる）を活用した完全ペーパーレス化」などです。どれも現時点で確定したものではありませんが、子どもたちの学びを充実させていくために、時間をかけて検討をしていきます。

51年目。「51」という数字を聞いてどんなことが連想されますか。私が真っ先に思いつくのは元MLBプレーヤーのイチローさんのことです。日米で数々の偉業を成し遂げたイチローさんは、引退会見の時に「イチロー選手の生き様でファンの方に伝わっていたらうれしいということはあるですか」という質問にこう答えました。

生き様というのは僕にはよくわかりませんが、生き方と考えれば、さきほどもお話ししましたがけれども、人より頑張ることなんてとてもできないんですよ。

あくまで測りは自分の中にある。それで自分なりにその測りを使いながら、自分の限界を見ながらちょっと超えていくということを繰り返していく。そうすると、いつの間にかこんな自分になっているんだという状態になって。

だから少しずつの積み重ねが、それでしか自分を超えていけないと思うんですよ。一気に高みに行こうとすると、今の自分の状態とギャップがありすぎて、それは続けられないと僕は考えているので。地道に進むしかない。進むというか、進むだけではないですね。後退もしながら、あるときは後退しかないうちもあると思うので。でも、自分がやると決めたことを信じてやっていく。

でも、それが正解とは限らないわけですよ。間違ったことを続けてしまっていることもあるんですけど、でも、そうやって遠回りをすることでしか本当の自分に出会えないというか、そんな気がしているので。

この言葉には、日々の学校での子どもたちや教職員の思いや葛藤が凝縮されていると感じます。「小さいことを積み重ねる事が、とんでもないところへ行くただひとつの道だと思っている」と言うイチローさんらしいコメントです。

本校でも、教職員全員が目の前の事象のベクトルを自分自身に向け、一人一人と集団の在り方を模索しながら一歩ずつ着実に小さな成功を積み重ねていきたいと思っております。時には後戻りしながら、全校児童404名。今年度も、よろしくお願いたします。